

「言葉の力」を中核とした鑑賞教室

「アート in はむら展」の鑑賞教室を参観して

7月7日、プリモホールゆとろぎ（羽村市生涯学習センターゆとろぎ）で「アート in はむら展」の鑑賞教室を参観しました。「アート in はむら展」は、ゆとろぎの施設全体を美術館に見立て、多摩地区の現代アート作家の作品などを展示するとともに、作家と来場者の交流を深めるワークショップやギャラリートークを実施する事業で、今年で21回目を迎えました。鑑賞教室はその一環として、2013年から市内全ての小学4年生を対象に教育課程に位置付けて行われています。羽村市学習コーディネーターの原田さんによれば、生涯学習施設を使った市民の会、学校、教育委員会、アーティストが協働で実施する鑑賞教室は、全国でも稀有だそうです。



鑑賞教室では、まず子どもたちが全員で作品を鑑賞し、感じたことや考えたことを伝え合いました。その後、それぞれの作者から制作の意図などに関する話を聞きました。子どもたちは、疑問点や興味をもったことなどを作者に途切れなく質問しました。続いて、サポートボランティアの学生たちと共に、全館に展示された作品をグループごとに見学しました。最後の自由鑑賞では、自分の気に入った作品を再び鑑賞し、ワークシートに感想をびっしり記入していました。

この一連の取組をとおして、子どもたちは言葉がもつ「考える力」、「感じる力」、「想像する力」、「表す力」を存分に発揮しながら、現代アート作家の作品を主体的に鑑賞しました。

まさに、「言葉の力」を中核とした鑑賞教室でした。

参考文献：「アート in はむら展 20th 記録集」2021.12 発行

難しい仕事は、分解しよう

(株)おいしい健康 共同CEO 野尻哲也

悩ましいほどに困難な仕事に直面しても、途方に暮れてはいけません。「これ以上は細かくできない」というレベルまで、仕事の要素を分解してみます。難しいと感じるのは、仕事の全体像が自分の容量を超えているから。だから、自分の容量に収まるまで、小さく噛み砕くのです。細かく分解すると、すぐに着手できる仕事必ずあります。できそうなものから、どんどんやっつけてしまいましょう。いくつかの難しい仕事が残っても、相応の成果は確実にあげられます。

出典：「はたらくきほん100 毎日がスタートアップ」(マガジンハウス)

※ 「困難は分割せよ」、大きな仕事に向かう際、己に言い聞かせています。